

祭礼衣装で明かりを灯す ～DoTeRa recover～

メンバー: 中川 優月 (融合学域先導学類 1年)、井手 光喜 (融合学域観光デザイン学類 3年)
野村 俊介 (能登里山里海未来創造センター 未来創造部門 研究員)
砂山 誠吾 (社会共創推進部地域共創支援課)

担当教員: 能登里山里海未来創造センター 特任准教授 高原 耕平

プロジェクトの概要

本プロジェクトは、能登半島地震の影響で使われなくなってしまった珠洲市の祭礼衣装「ドテラ」を回収し、地域の祭りの衣装文化を次世代へとつないでいくことを目的として取り組んでいる学生プロジェクトです。
震災により家屋が倒壊・解体され、ドテラを失った人や、着る機会がなくなった衣装が多く存在している現状を受け、使われなくなったドテラを集め、再び祭りの場へとつなげる仕組みづくりを進めています。

【プロジェクトを立ち上げたきっかけ】

- ①能登半島地震後、珠洲市では多くの家屋が倒壊・解体され、それと同時に祭りで使われてきたドテラも失われていった。
- ②祭りを続けたい、残していきたいという想いは残る一方で、衣装が手元に残っていない家庭が多く存在していた。
- ③こうした状況を受け、使われなくなったドテラを集め、再び祭りの場へとつなぐ取り組みを開始した。



ドテラに詰まった「祭りの記憶」を未来へ繋ぎませんか？

【概要】

地震で倒壊した家屋の下敷きになり使えなくなったドテラ、もう着る人がいなくなりタンスの奥に眠っているドテラ、それらの生地を集め新しいドテラに仕立て直し、次世代へと継承する活動を行います。



※自宅にドテラが眠っている方へ無償譲渡・寄付のお願いとなります。古いもの、汚れや傷みがあるものでも大切に使用させていただきますので、下記までご連絡をお願いします。

お問い合わせ
金沢大学 のと学生未来創造プロジェクト
「祭礼衣装で明かりを灯す」 中川
☎ 090-5394-8241
✉ n.ylzk25@gmail.com

実際に使用したDoTeRa recoverのポスター

【まとめ】

本プロジェクトを通して、震災後の珠洲市における祭礼衣装ドテラの現状が、聞き込みや現場での活動から明らかになりました。ドテラは新たに購入したくても、現在は入手が難しい状況にあります。そこで**地域に残る裁縫の技術に着目し**、地域の高齢者とともに修繕や仕立て直しを行うワークショップの開催を検討しています。
少数でも集まったドテラを大切に、人と技術をつなぎながら、**祭りに関わる新たな形**を生み出していきたいと考えています。

【この活動を通して感じたこと】

ドテラが想定していたよりも集まっていないという結果も、震災後の地域の現状を正確に映し出した大切な成果だと感じました。震災によって多くのものが失われる中で、祭礼衣装であるドテラもまた、静かに姿を消しつつある現実を知りました。一方で、聞き込みを通して、自分の地元である珠洲市だからこそ築くことができた人とのつながりや、「もっと早く知りたかった」「必要としている人がいるなら協力したい」という声にも多く出会うことができました。
地元・珠洲市で続いてきた祭りが、震災後も形を変えながら受け継がれていくように、これからも地域の人と向き合いながら、この活動を続けていきたいと考えています。

珠洲市の中でも限られた地域のキリコ祭りで使用されている華やかな着物のような祭礼衣装



実際のドテラの写真

【取り組んだこと】

★珠洲市内の商店や施設を訪問し、**ドテラ回収のポスターの配布、掲示**を依頼。

★珠洲市内の共同浴場「あみだ湯」にて、来場者へ**ドテラに対する聞き込み**を実施。

→聞き込みから見たドテラの現状

- ・震災から約2年が経過し、家屋の解体の際、「もう使わない」「**仮設住宅は狭くて保管場所がない**」といった理由から、家財と共に処分してしまったケースが多数あった。
- ・実際の聞き込みの中で、「**もう少し早く言ってくれば残しておいたのに、。**」という声を多くいただいた。

【見えてきた現状】

- ・聞き込み調査の結果、ドテラは当初想定していたほど多くは残っていないことが分かった。
- ・その背景として、家屋の公費解体がほぼ終了しており、解体時にドテラが家屋と共に処分されたケースが多い。
- ・**震災後の時間経過と共にドテラが静かに失われつつある。**
- ・新たにドテラを購入したいと考えても、現在は入手できる場所がほとんどない。

